

# PEACE CREATORS



創価学会女性平和委員会 活動紹介

私たち創価学会女性平和委員会は、1980年の発足以来、  
“平和は一人の心の変革からはじまる”  
“私たち一人一人が平和創造の主体者（ピースクリエーター）に”  
との思いで、草の根の平和運動を推進しています。

以下の3つのモットーを掲げ、  
全国各都道府県で活動を推進しています。

- 1 女性の平和意識を啓発
- 2 生命尊厳の思想を次代へ継承
- 3 「平和の文化」のネットワークを拡大

# CONTENTS

## ・ 詩「平和を！平和を！そこに幸福が生まれる」

### ・ 01 平和の文化

#### 「平和の文化」とは

国連が「平和の文化」を提唱

#### 「平和の文化」を構築

平和の文化講演会／平和の文化フォーラム

平和の文化と希望展／各界識者・専門家との連帯・交流

「私がつくる“平和の文化”」を機関紙に連載・出版

### ・ 02 不戦・核兵器廃絶

#### 核兵器廃絶への取り組み

略年表／署名運動／国際会議への参加

#### 戦争・被爆体験の継承

【イベント】 広島・長崎の取り組み／沖縄の取り組み

草の根映写会／終戦・被爆 70 年平和フォーラム

【出版】 戦争・被爆証言集

『女性たちのヒロシマ』／被爆証言集（英語版）

反戦出版シリーズ『平和への願いをこめて』

主な出版物

【映像】 被爆証言 DVD（5 言語版）／戦争証言 DVD

【展示】 15,000 人のアンネ・フランク～テレジンの幼い画家たち展／女たちの太平洋戦争展

#### 青年の取り組み

青年不戦サミット／世界青年サミット／平和意識調査

#### 創価学会 平和運動の原点 — 原水爆禁止宣言

### ・ 03 子どもの権利を守る

子どもの笑顔キャンペーン（2019～）

子どもたちとつくる平和の文化キャンペーン（2014～2016）

「子どもの権利条約」に関する NGO レポート作成に参加

展示 平和の文化と子ども展 ほか

講演会

### ・ 04 ジェンダー平等と女性のエンパワーメント

平和の文化と女性展

ジェンダーに関する意識調査

フォーラム・講演会等

### ・ 05 SDGs の取り組み

フォーラム

講演会

学習ツール 国連の「ACT NOW」を支援 ほか

## ・ 年表

※本書に登場するすべての方々の所属・肩書は行事開催当時のままとなっています。



平和は 遠くにあるのではない  
一人の人を 大切にすることだ  
お母さんを 泣かせないことだ  
自分と違う人とも 語り合っていくことだ  
喧嘩があっても 賢く仲直りすることだ

そしてまた

美しい自然を 護っていくことだ  
豊かな文化を 育てていくことだ  
人の不幸の上に 自分の幸福を築かないことだ  
喜びも苦しみも 皆で分かち合っていくことだ

わが友を幸福にできる人が  
幸福博士なのだ

池田大作

長編詩「平和を！平和を！そこに幸福が生まれる」より抜粋

# 01 平和の文化



## 「平和の文化」とは

「平和」とは、単に戦争がないことではありません。

生命の尊厳や安全を脅かすすべてのものが、「平和」の対極にあります。

「平和の文化」とは、平和を築くための価値観、態度、行動、生き方のことです。

「平和の文化」を築くためには、対話、教育、そして人と人とのつながりを広げるなど、私たち一人一人のたゆみない努力が必要です。

### 戦争・暴力の文化

生命・人権の軽視

敵視・排斥

情報の統制

権力による支配

男女差別

環境破壊・不平等な開発

暴力・虐待

孤立・分断

武力紛争



### 平和の文化

生命・人権の尊重

寛容・多様性の尊重

情報の自由

民主的参加

男女の平等

公正で持続可能な開発

非暴力・対話

連帯・協力

平和・安全

出典：「ユネスコの平和の文化プログラム：序論」より D.アダムス&M.トゥルー  
国際平和研究ニュースレター、vol.35, No.1, 1997年3月

## 国連が「平和の文化」を提唱

20世紀、人類は2度の世界大戦を含む幾多の戦争・紛争を経験しました。その反省に立って、国連をはじめ国際社会は、「戦争と暴力の文化」から「平和と非暴力の文化」へと、「人間の価値観や行動」そのものを変革していく努力が必要だとして、「平和の文化」を築くための取り組みを開始しました。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」——  
「平和の文化」は、このユネスコ憲章とも呼応するものです。

国連は1999年に「平和の文化に関する宣言及び行動計画」を採択し、生命の尊厳、教育・対話や協力を通じた非暴力の実践、環境の保護、男女の平等や人権の尊重に基づいた価値観、態度や振る舞い等、「平和の文化」に基づく生き方を呼びかけています。

1999

9月13日、国連総会において  
「平和の文化に関する宣言」  
「平和の文化に関する行動計画」  
を採択

2000

国連「平和の文化国際年」

2001-2010

国連「世界の子どもたちの  
ための平和の文化と非暴力の  
国際10年」

2012-

国連総会議長が主催する  
「平和の文化に関するハイ  
レベルフォーラム」を開催

## 「平和の文化」の8つの行動領域

- ① 教育による「平和の文化」
- ② 持続可能な経済的・社会的発展
- ③ あらゆる人権の尊重
- ④ 女性と男性の平等を保障
- ⑤ 民主的な参加の促進
- ⑥ 理解と寛容、連帯
- ⑦ コミュニケーションと情報の自由な流通
- ⑧ 国際的な平和と安全

出典：1999年9月13日 国連総会決議53/243

## 国連「平和の文化」に関するハイレベルフォーラムより

1999年「平和の文化に関する宣言と行動計画」に関する国連総会決議(53/243)より20周年の2019年9月7日、記念の国連ハイレベルフォーラムが開催された。

アントニオ・グテーレス事務総長は、「国連が創設されて以来、世界の平和と安全に対するこのように複雑で多角的な脅威に直面したことはこれまでにありませんでした。このような重大な危機に直面して、グローバルな協力と行動のための本質的な基礎として『平和の文化』に向かって取り組むことがこれまで以上に重要になっています」と語った。

この決議を主導したアンワルル・K・チョウドリ元国連事務次長はこう語る。

「ある人がある時、非暴力的な方法で紛争解決に成功したとします。それは、その人が世界に大きな貢献をした、ということなのです。

その一つの行為によって、非暴力と協力の精神を他の一人へ伝えることに成功したからです。こうした精神は、何度も繰り返されることで飛躍的に成長します。そして、対立を非暴力で解決することを選択する度に、より容易く実践できるようになっていくのです」。



Photo: Ambassador Anwarul K. Chowdhury at 2019 HLF-CoP observing the 20th anniversary of the culture of peace at UN on 13 September 2019. Credit: UN

## 「平和の文化」を構築

女性平和委員会は、国連が提唱する「平和の文化」の構築を目指して活動を展開しています。

### 「平和の文化講演会」

2011年より、各界で「平和の文化」の構築に活躍する有識者を講師に招き、全国各地で「平和の文化講演会」を開催しています。テーマは、平和構築、人道支援、災害復興、子どもの人権、児童虐待、高齢社会、核兵器廃絶、ジェンダー平等、気候危機など、多岐にわたっています。



2022年2月 岐阜県



2022年10月 福岡県

### 「平和の文化フォーラム」

2003年より開催している「平和の文化フォーラム」では、“家庭、地域社会こそが「平和の文化」を生み出す出発点”との視点で、これまでに全国500以上の会場で1,800人を超える女性たちが登壇。それぞれの立場で「平和の文化」を築くために挑戦している体験や主張を発表し、共有してきました。

体験のテーマは、子どもの不登校やいじめ、差別・障がいなどの課題や、異文化交流、環境問題への取り組み、戦争体験の共有など、多岐にわたっています。

様々な世代の女性たちが真摯に語る体験は、深い共感と勇気の輪を広げてきました。



2019年11月 長野県



2009年、体験主張の中から18編を収録し、『朗らかに!私がつくる「平和の文化」』を出版(鳳書院)

## 平和の文化と希望展

急速に少子高齢化が進む日本社会が直面する諸課題を取り上げ、これからの時代に希望を持って生きるためにはどのような価値観の転換が必要なのか、共に考えるための展示を企画・制作しました。特に、子どもと高齢者に焦点を当て、「平和の文化」を社会の基盤とする大切さを訴えています。2015年から2020年に全国展開し、のべ34万人が来場しました。



## 各界識者・専門家との連帯・交流

国内外の識者・専門家との交流を通し、「平和の文化」の構築に関して意見交換をしています。



国連で「平和の文化」を主導してきた元国連事務次長のアンワルル・チョウドリ博士は、「平和の文化」を推進する女性平和委員会に大きな期待を寄せてきた。

2022年10月にはメンバーと懇談し、「平和の文化」の構築はSDGs達成の土台であり、長年その啓発・推進に取り組んできた女性平和委員会の存在は大きな希望であると語った。



アメリカのエマソン協会元会長、コルゲート大学教授のサーラ・ワイダー博士は、長年、女性平和委員会と「平和の文化」の推進をテーマに交流を重ねてきた。

2012年10月には東日本大震災の爪痕が残る宮城県の被災地を訪問。被災者と懇談したあと、「心を結ぶつける言葉の力」をテーマに講演し、参加者へ励ましを送った。

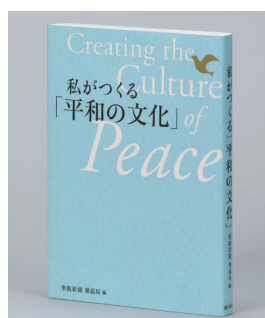


ニュージーランド・オタゴ大学国立平和紛争研究所のケビン・クレメンツ所長も、女性平和委員会と交流を深めてきた。

2012年3月の「平和の文化講演会」では、慈悲と人間愛あふれる「平和の文化」構築のために、多くの女性が地域や自治体の意思決定に積極的に関わってほしいと語った。

## 『私がつくる「平和の文化」』を機関紙に連載・出版

「平和の文化に関する宣言と行動計画」の採択より20周年となる2019年から3年間、聖教新聞に『私がつくる「平和の文化」』を連載。各界識者へのインタビューを通し、平和はどこか遠くにあるのでも、誰かが実現してくれるのでもなく、自分の今いる場所から始まることを訴えています。



新聞に連載後、出版された『私がつくる「平和の文化」』(2022.11潮出版社)



▲  
本については  
こちらから

### <聖教新聞 連載一覧>

1. アンワルル・K・チョウドリ(元国連事務次長)
2. アグネス・チャン(歌手)
3. 治部れんげ(ジャーナリスト)
4. 廣野良吉(成蹊大学名誉教授)
5. 大谷美紀子(国連子どもの権利委員会委員)
6. ケビン・クレメンツ(戸田記念国際平和研究所所長)
7. サーラ・ワイダー(米エマソン協会元会長)
8. 坂東眞理子(昭和女子大学理事長・総長)
9. ベアトリス・フィン(ICAN事務局長)
10. 姜尚中(政治学者)
11. 長有紀枝(「難民を助ける会」理事長)
12. ベティ・リアドン(平和教育研究者)
13. 横山だいすけ(歌手・俳優)
14. 加藤寛幸(国境なき医師団日本・会長)
15. 土井香苗(ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表)
16. 大久保勝仁(SDGs市民社会ネットワーク理事)
17. 森田正光(気象予報士・お天気キャスター)
18. 国谷裕子(ジャーナリスト)
19. 荻上チキ(評論家)
20. 和田征子(日本被団協事務局次長)
21. マンペラ・ランペレ(ローマクラブ共同会長)
22. 中満泉(国連事務次長・軍縮担当上級代表)
23. 内田伸子(お茶の水女子大学名誉教授)
24. デニ・ムクウェゲ(ノーベル平和賞受賞者・医師)
25. 井上真央(俳優)
26. 竹下義樹(日本視覚障害者団体連合会長・弁護士)
27. 向井千秋(宇宙飛行士)
28. 焼家直絵(国連WFP日本事務所代表)
29. アンドリュー・ヤング(米国で黒人初の国連大使)
30. 石岡史子(「ホロコースト教育資料センター」理事長)
31. 東京オリンピック・パラリンピック 南スーダン代表
32. 野口健(アルピニスト)
33. エメル(チュニジアの歌手)
34. パオ・チョニン・ドルジ(ブータンの映画監督)
35. エディス・エヴァ・イーガー(アウシュビッツを生き延びた心理学者)





# 02 不戦・核兵器廃絶

仏法の“生命の尊厳”の思想を根本に、核兵器廃絶、戦争体験の継承等、世界平和の実現を目指す活動を推進しています。



## 核兵器廃絶への取り組み

創価学会は核兵器廃絶を社会的使命と捉え、長年、草の根の核兵器廃絶運動に取り組んできました。近年では、2021年1月に発効した「核兵器禁止条約」の成立過程において、市民社会の一員として、またICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)の国際パートナーとして議論に参画。条約の採択と発効に向けて尽力しました。女性平和委員会もそれに呼応し、活動を展開しています。

### 略年表

1975 ▶

1975.1

青年部の核兵器廃絶1,000万署名を池田大作・第3代会長が国連事務総長へ提出。  
池田会長、創価学会インタナショナル(SGI)会長に就任

1976.6

青年部による全国縦断の反戦・反核展始まる

1980 ▶



1,000万署名を国連事務総長へ提出

1978.5

池田SGI会長、第1回国連軍縮特別総会に寄せて「核軍縮及び核廃絶への提唱」を発表



第2回国連軍縮特別総会(1982年)

1985 ▶

1982.6

池田SGI会長、第2回国連軍縮特別総会に寄せて「軍縮及び核兵器廃絶への提言」を発表。  
ニューヨークの国連本部で、「核兵器—現代世界の脅威」展(国連広報局、広島・長崎市と共催)を開幕。  
ソ連、中国など核保有国を含む世界24カ国39都市を巡回した

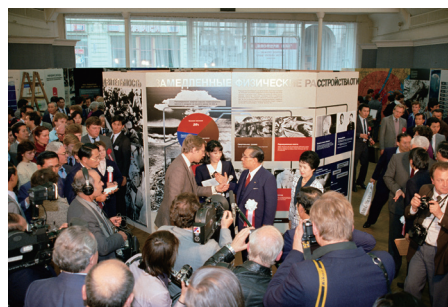
1983.1

池田SGI会長、「平和と軍縮への新たな提言」以後、40年以上にわたり毎年「平和提言」を発表

池田SGI会長の核軍縮を中心とした平和活動への貢献に対し、国連事務総長より「国連平和賞」が授与された



「核兵器—現代世界の脅威」展(国連本部)



モスクワ展で挨拶する池田SGI会長(1987年)

1988.5

池田SGI会長、第3回国連軍縮特別総会に寄せて「全面軍縮へ世界的潮流を」を発表

## 2007

「核兵器廃絶への民衆行動の10年」  
キャンペーンをスタート。ICANの国  
際パートナーとして活動開始



広島で開幕(2012年)

## 2012

ICANと共同制作した「核兵器なき世界への連帯」展  
が開幕。世界巡回を開始



## 2018

ICAN事務局長が青年部と交流

## 2015

広島で「核兵器廃絶のための  
世界青年サミット」を開催

## 2017

「核兵器禁止条約交渉会議」  
(第1会期、第2会期)で作業  
文書を提出。※7月7日「核兵器  
禁止条約」採択

ICANがノーベル平和賞を受賞

## 2020

核兵器廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名」  
を支援 (2021年1月に国連へ提出)

## 署名運動

### 「ヒバクシャ国際署名」に協力

2016年3月、平均年齢80歳を超える  
被爆者の訴えを受け、「ヒロシマ・ナガ  
サキのヒバクシャが訴える核兵器  
廃絶国際署名」がスタート。同年7月、  
署名推進のための連絡会が設置  
され、創価学会平和委員会も参加。

女性平和委員会と青年部が推進した

署名は全国で40万2,301筆にのぼり、2021年1月に国連に提出されました。(オンライン  
署名数と広島県推進連絡会・長崎原爆被災者協議会への寄託分21万6,328筆は除く)



## アボリション 2000—核兵器廃絶への署名運動

核兵器廃絶を目指す国際的な市民運動「アボリション2000」に協力し、日本で1,300万人の署名を集め（海外を含めると13,016,586人）、1998年10月に国連に提出しました。



### 核兵器廃絶 1,000 万署名

1975年1月、青年部が核兵器廃絶を求める1,000万署名を推進。池田大作・第3代会長がニューヨークの国連本部を訪問し、国連事務総長に直接提出しました。



## 国際会議への参加

### 核兵器禁止条約第1回締約国会議

2022年6月、ウィーンで開催された核兵器禁止条約第1回締約国会議に参加。並行して行われた「ユース締約国会議」においても、女性平和委員会のユース会議の代表が、イタリアの核兵器廃絶運動の団体「センツアトミカ(核兵器はいらない)」等と共に、「草の根の教育運動」をテーマにワークショップを行いました。また、締約国会議の場で発表された「ユース声明」の起草にも携わりました。



## 核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議

2022年8月、ニューヨークの国連本部で開催された第10回NPT再検討会議に、女性平和委員会の代表が参加。池田SGI会長が同会議に寄せて発表した「核兵器の先制不使用」の誓約などを求める緊急提案を受け、各国の代表と「先制不使用」の誓約の必要性について語り合いました。また同会議では、SGIをはじめとする104団体が賛同署名した宗教間共同声明を発表。「核なき世界への祈りの日」として開催された宗教間集会でも、女性平和委員会メンバーが代表として、同声明を読み上げました。



宗教間共同声明を読み上げる

## 戦争・被爆体験の継承

高齢化が進む戦争体験者・被爆者から惨禍の記憶を聞き取り、平和の心を次世代へ継承しようと、さまざまな活動を続けています。

## イベント

### 広島・長崎の取り組み

広島、長崎では、「原爆の日」を中心に被爆体験を継承する機会を設けています。広島では、「被爆体験を聞く会」を2004年から約20年間にわたり毎年開催。2020年よりオンラインで全国からも視聴できるよう工夫しています。長崎でも毎年「ピースフォーラム」を開催。子どもたちとその保護者らが、被爆遺構を歩いて巡る「ピースウォーク」などのイベントを継続的に行っています。



広島・被爆体験を聞く会



「ピースウォーク」で長崎原爆死没者追悼平和祈念館へ

## 沖縄の取り組み

沖縄青年部は、沖縄戦体験者が描いた「沖縄戦の絵」の巡回展を、1982年以降、県内47市町村をはじめ全国72都市で開催。これらの絵は沖縄戦の体験者が描いたもので、“島人”(しまんちゅ)の視点で戦争の実像をとらえた歴史的資料です。現在は複製パネル「沖縄戦の絵～島人 痛恨の記憶」を、平和学習教材として無償で貸し出しています。

2021年には新たに戦争体験者から聞き取りを行い、それをもとにした「沖縄戦の紙芝居」を制作。子どもにも分かる言葉を選び、持ち物や服装の細部にいたるまで丁寧に描いたもので、県内の小中学校などで平和学習に活用されています。



「沖縄戦の絵」のパネル



沖縄戦の紙芝居

## 草の根映写会

日本は唯一の戦争被爆国でありながら、多くの市民は被爆体験を聞く機会がありません。女性平和委員会は核兵器の非人道性を伝え、二度と使用させないとの思いを共有するため、全国各地で被爆体験の上映会を開催しています。特に2017年の年頭からは、国連での「核兵器禁止条約」の採択(同年7月)をあと押しして実施。さらに2021年の同条約の発効(同年1月)に向けて継続開催し、延べ41万人が参加しました。



和歌山県での映写会



## 終戦・被爆 70 年平和フォーラム

2015年7月、「終戦・被爆70年平和フォーラム」を開催。映像作家の田邊雅章氏を講師に招き、同氏が制作した記録映画「知られざるヒロシマの真実と原爆の実態」を公開しました。

同作品は、500人にのぼる被爆者の証言や資料分析を踏まえ、被爆前の「原爆ドーム」をはじめ、爆心地から半径1キロ圏内の街並みや暮らしをコンピューターグラフィックスの技術を用いて再現したものを。

原爆で何が失われたのかを訴えるとともに、被爆の実相を未来に継承する事業として、広島県や広島市等と共に、創価学会も制作に協力しました。



◀ こちらからご覧になれます



自らの被爆体験を語る田邊雅章氏



田邊氏の映像作品から再現された原爆投下前の広島の街並み。右奥の円形の屋根が、のちに原爆ドームとなる産業奨励館

## 出版

### 戦争・被爆証言集

終戦・被爆75年(2020年)にあたり、広島、長崎、沖縄では、中高生を含む青年が聞き取り運動を実施。「同じ思いは二度とさせたくない」と語られる体験から、75年の重みを改めて学ぶとともに、「平和とは何か」を考える機会となりました。さらに、聞き取った証言と中高生の感想、被爆遺構の紹介も収録した書籍を発刊。平和学習教材として、図書館や小・中学校、高校などへ寄贈しています。



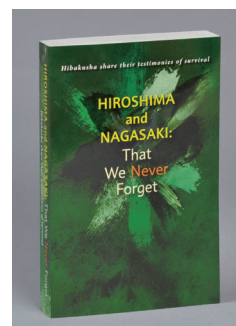
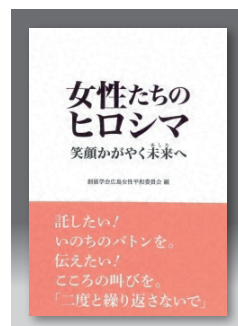
証言の聞き取り



広島・長崎・沖縄の証言集

## 『女性たちのヒロシマ』／被爆証言集（英語版）

2016年に、広島女性平和委員会が日英対照の被爆証言集『女性たちのヒロシマ』を発刊。2017年には、創価学会青年部がIPPNW（核戦争防止国際医師会議）の協力を得て、英語版の被爆証言集『Hiroshima and Nagasaki: That We Never Forget』を発刊しました。



◀ こちらから  
ご覧になれます ▶



## 反戦出版シリーズ『平和への願いをこめて』

1981年、女性平和委員会は、全国各都道府県で戦争体験集の編纂を開始。10年間をかけて刊行された反戦出版『平和への願いをこめて』全20巻には、戦禍に苦しんだ女性達471編の手記が収められています。

また、子どもたちにも理解しやすいよう、ジュニア版6巻を刊行。ここでは、戦中・戦後の混乱の中で生死の境をさまよい、飢えにさいなまれた子どもたちの姿を、証言に基づき再現しています。

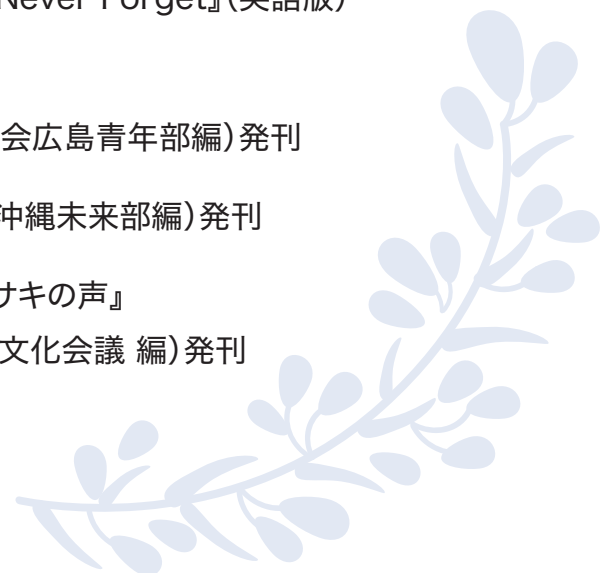
さらに、創価学会青年部が1974年から12年間かけて編纂した『戦争を知らない世代へ』全80巻には、3,400人におよぶ戦争体験者の証言が収められています。



反戦出版『平和への願いをこめて』20巻  
およびジュニア版  
青年部の『戦争を知らない世代へ』80巻  
英語版

## 主な出版物

- 1981年8月 反戦出版『平和への願いをこめて』第1巻 発刊
- 1983年7月 『語ってよ、母さん 娘たちのルポルタージュ』発刊
- 1985年5月 『もう一つの被爆碑 在日韓国人被爆体験の記録』発刊
- 7月 反戦出版ジュニア版の発刊開始
- 青年部の反戦出版『戦争を知らない世代へ』80巻完結
- 12月 『NO MORE WAR 娘たちの見た戦火』発刊
- 1991年7月 反戦出版『平和への願いをこめて』全20巻完結
- 2003年6月 『命どう宝 沖縄戦・痛恨の記憶』(創価学会青年平和会議編) 発刊
- 8月 『舞え! HIROSHIMAの蝶々 被爆地からのメッセージ』  
(創価学会青年平和会議編) 発刊
- 『平和への祈り 長崎・慟哭の記録』(創価学会青年平和会議編) 発刊
- 2014年4月 『男たちのヒロシマ』(日英対照) (創価学会広島平和委員会編) 発刊
- 2015年5月 『語りつぐナガサキ』(日英対照) (創価学会長崎平和委員会編) 発刊
- 11月 『家族から見た「8・6」』(日英対照) (創価学会広島青年部編) 発刊
- 2016年9月 『未来へつなぐ平和のウムイ』(日英対照) (創価学会沖縄青年部編) 発刊
- 11月 『女性たちのヒロシマ』(日英対照) (創価学会広島女性平和委員会編) 発刊
- 2017年9月 『Hiroshima and Nagasaki: That We Never Forget』(英語版)  
(創価学会青年部編) 発刊
- 2020年10月 『75 未来へつなぐヒロシマの心』(創価学会広島青年部編) 発刊
- 『私がつなぐ沖縄のククル〈心〉』(創価学会沖縄未来部編) 発刊
- 11月 『大切な青年(きみ)と 未来につなぐナガサキの声』  
(創価学会長崎青年平和委員会・女性平和文化会議 編) 発刊





## 映像

## 被爆証言 DVD (5言語版)

2009年4月、DVD「平和への願いをこめて—広島・長崎 女性たちの被爆体験」をICANと共同制作。女性平和委員会が、終戦・被爆60年(2005年)に取り組んだ「戦争・被爆体験の継承・記録運動」で取材・収録した代表の被爆体験を編集したものです。

(英語、スペイン語、フランス語、中国語、日本語に対応)

こちらからご覧になれます ▶



## 戦争証言 DVD

終戦・被爆60年の2005年夏、第2次世界大戦の戦火をくぐりぬけてきた、名もない女性たちの体験を未来に語り継ぎたいとの思いで、「戦争・被爆体験の継承・記録運動」を展開。各県のメンバーが訪ねた約180人の貴重な証言を映像に収めました。

その中から31人の証言をテーマ別に収録した戦争証言DVD「平和への願いをこめて—女性たちの戦争体験—」は、各地の主要図書館等に寄贈されたほか、各地のケーブルテレビでも放映されています。



◀ こちらからご覧になれます



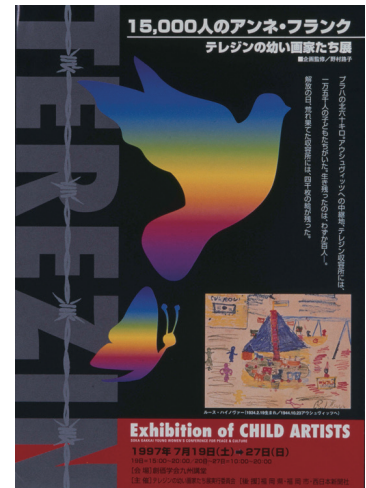
## 展 示

### 15,000人のアンネ・フランク ～ テレジンの幼い画家たち展

第2次世界大戦中、ナチス・ドイツによって、旧チェコスロバキアの「テレジン収容所」に強制収容されていた15,000人の子どもたち。彼らを励まし続けた女流画家フリードル・ディッカーの生涯を子どもたちが残した絵画や詩とともに紹介しました。

二度とこうした悲劇を繰り返さないとの、平和への誓いを込めた展示は、1997年7月から全国17都市を巡回し、のべ45万人が鑑賞しました。

テレジン展のポスター  
(企画・監修 野村路子氏)



### 女たちの太平洋戦争展

戦禍の中で青春時代を過ごした女性たちの現実はどうのようものであったかを、1980年代に生きる同世代の女性たち(10代～30代)が自らの眼で捉え直そうと、戦争体験者の証言や提供資料をもとに制作しました。

学業や仕事の合間を縫って、当時の生活を物語る千人針、防空頭巾、従軍看護師の制服、衣料切符をはじめ、証言、写真、物品を丹念に収集した展示は、戦争の真実を浮き彫りにしました。1981年8月、東京・三省堂書店で開幕後、全国8会場で開催しました。



山口・防府ショッピング・デパートで (1982年)



神奈川・横浜松坂屋で (1985年)



沖縄・那覇のダイハチで (1987年)

## 青年の取り組み

全国の青年世代が、自分たちの未来を見据え、交流を重ねつつ、各地で平和運動を展開しています。

### 青年不戦サミット

1989年から、広島、長崎、沖縄の青年が集う「3県平和サミット」として毎年開催してきました。2015年に名称を「青年不戦サミット」に改め、2017年からは全国の代表が参加。青年による平和運動について協議し、平和への誓いを新たにしています。



2022年 神奈川で開催

### 世界青年サミット

2015年8月、世界23カ国の青年が広島に集結し、3日間にわたり開催したサミットでは、アフマド・アレンダヴィ国連事務総長青少年問題特使(当時)も講演。最終日には参加者の総意として、核兵器のない世界実現へ行動を呼びかける「青年の誓い」を発表しました。



### 平和意識調査

2005年、東京・福岡など全国15都市で、10代後半から30代の男女2,261人を対象に「平和アンケート」を実施。「平和意識」「核兵器」「戦争体験の継承」に関する設問への回答から分析を行いました。

アンケート結果の詳細は、『いまからはじめる平和の一步 ピーステップ』(2005年8月発刊)に掲載されました。

2012年にも、全国の10代～30代の男女1,309人に、戦争・被爆体験や核兵器への問題意識等をテーマに「青年平和意識調査」を実施。

若い女性が青年層と対面形式で調査を行うことで、聞く側、応える側も問題を我が事として考える機会となりました。



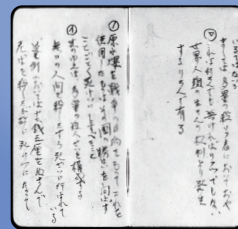
## 創価学会 平和運動の原点 — 原水爆禁止宣言



原水爆禁止宣言を発表する戸田第2代会長



5万人の青年が集った  
横浜の三ツ沢競技場



宣言の草案が記されたメモ

創価学会の平和運動の原点は、戸田城聖 創価学会第2代会長による「原水爆禁止宣言」です。同宣言は、1957年9月8日、横浜・三ツ沢の競技場に集った約5万人の青年の前で、「遺訓すべき第一のもの」として発表されました。

当時は東西冷戦下、大国の核実験が繰り返されていました。戸田会長は、生命の尊厳を根底に捉える仏法者の立場から、核兵器は“絶対悪”であると断じ、“その奥に隠されている『爪』をもぎ取りたい”と訴えました。

核兵器問題の本質とは、自己の欲望のためには相手の殲滅をも辞さないという、核兵器を容認する思想そのものであり、それこそが、私たちが根源的な意味で戦うべき相手であることを明らかにしたのです。

この宣言に込められている精神は、核兵器の存在そのものを否定し全面的に禁止する「核兵器禁止条約」と、まさに響き合うものです。60年の時を経て同条約が採択され(2017年)、発効(2021年)したことは、「核兵器のない世界」に向けた大きな前進といえるでしょう。

# 03 子どもの権利を守る

子どもが幸福を実感できる社会は、すべての人にとって幸福な社会といえます。女性平和委員会は、「子どもの権利条約」の精神が生かされた社会を築くため、活動を展開しています。

## 「子どもの権利条約」とは？

「子どもの権利条約」は、1989年11月20日、国連総会において採択されました。子ども(18歳未満)が保護の対象だけでなく、権利の主体であることを明確にうたい、子どもの権利を考える際に重要な「差別のないこと」「子どもにとって最もよいこと」「命が守られ成長すること」「意見を表明し参加できること」の4つの原則が定められています。さまざまな人権条約のなかで最も多い196カ国・地域が、同条約を締約しています(2019年2月現在)。日本は、1994年に批准しました。

## 子どもの笑顔キャンペーン(2019～)

「子どもの権利条約」採択30年、日本の批准25年にあたる2019年、条約の精神がさらに広く浸透することを願い、「子どもの笑顔キャンペーン」をスタートしました。

### アンケート

#### ◆ 2020年～21年 対象:おとな(18歳以上)

集計の結果、親や保護者が心豊かな子育てをするためには、周囲や社会の適切なサポートの必要性が明確になりました。また、2019年に保護者等による体罰禁止の法案が国会で可決・成立したことを「知らなかった」は26.7%、しつげに体罰は「絶対必要」「時には必要」「わからない」との意見が25.7%ありました。



### 子どもの笑顔を広げよう！

子どもたちを幸せにするって、国連がつくった「子どもの権利条約」は、2019年で、採択30年を迎えました。子どもの笑顔のために、私たちに何ができるでしょうか。

(創価学会女性平和委員会は、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」に参加しています)

クイズ・アンケート「子どもの笑顔のために」にお答えください。

\*は必ずお答えください。その他は、回答自由です。

Q1. 世界の国・地域の中で「子どもの権利条約」を批准(正式に条約を結ぶこと)していない国はいくつあるでしょうか？(1つ回答)

- A. 1か国
- B. 4か国
- C. 10か国



### 子どもの笑顔を広げよう！

子どもたちを幸せにするって、国連がつくった「子どもの権利条約」は、2019年で、採択30年を迎えました。子どもの笑顔のために、私たちに何ができるでしょうか。



創価学会女性平和委員会は、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」に参加しています。

意識啓発用パンフレット「子どもの笑顔を広げよう！」を作成



◀こちらから  
ご覧になれます

「子どもの笑顔を広げよう！クイズ&アンケート」  
(18歳以上対象)

## ◆ 2022年 対象:中高生世代(12歳~17歳)

集計の結果、約4人に1人の子どもが、家や学校などで「意見を聞いてもらえない」と感じることもあるなど、子どもたちのありのままの声が多く寄せられました。

さらに、このアンケートの結果報告を兼ねたフォーラム・講演会を開催し、意識啓発のための映像も制作しました。



◀ こちらからご覧になれます



アンケート「クイズで考える“子どもの権利条約”」  
(中高生世代対象)

## 子どもたちとつくる平和の文化キャンペーン(2014~2016)

「子どもの権利条約」採択より25年、日本が批准してより20年にあたる2014年からの2年間、「子どもたちとつくる平和の文化キャンペーン」を展開。

子どもの幸福のために日々努力を重ねる大人と、子ども自身の主張を発表する「子どもたちとつくる平和の文化フォーラム」を、全国130会場で開催しました。また、同条約の趣旨をわかりやすく解説するビデオ「子どもたちとつくる未来」を制作。前年の2013年には、アンケート「中学生・高校生に聞きました」を実施しました。



「子どもたちとつくる平和の文化フォーラム」

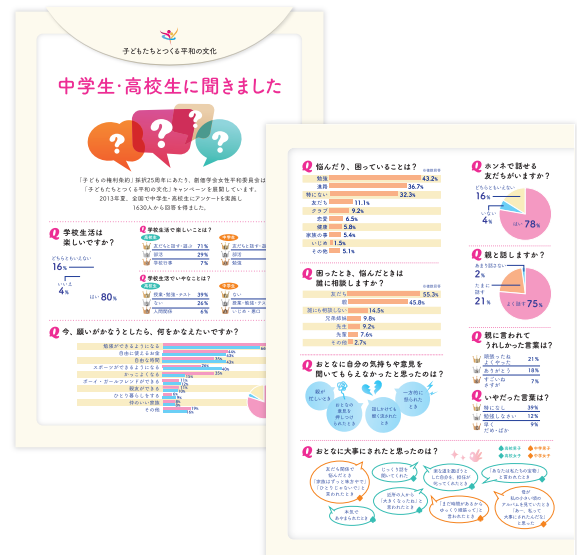


ビデオ「子どもたちとつくる未来」より

©UN Audiovisual Library, Department of Public Information



◀ こちらからご覧になれます



アンケート「中学生・高校生に聞きました」

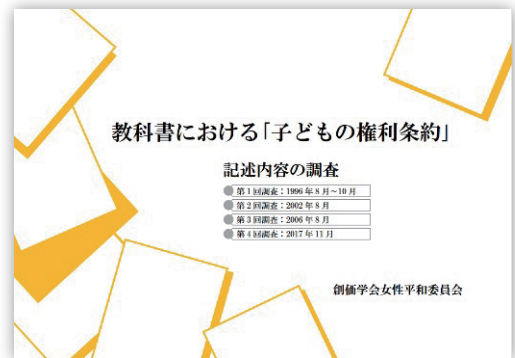
## 「子どもの権利条約」に関するNGOレポート作成に参加

国連「子どもの権利委員会」による日本における条約の履行状況の審査に際し、NGOレポートの作成に参加してきました(1997年から4回にわたって継続)。

主に条約の広報(42条)について調査。なかでも、条約の認知に大きな役割を果たしている小中高校の教科書に、条約がどのように記載されているかを継続して調査しました。



こちらからご覧になれます ▶



調査結果をまとめた報告書

## 展示

「子どもの権利条約」採択(1989年)後、いち早く日本の批准を後押しするため、「What're子どもの人権展」を全国展開しました(1991年~)。日本が批准(1994年)してからも、展示活動を通し世論形成に尽力してきました。

### 平和の文化と子ども展

「世界の子どもたちのための平和の文化と非暴力の国際10年(2001~2010年)」の折り返し年にあたる2006年、「平和の文化と子ども展」を企画・制作。子どもの持つ限りない可能性と、日本と世界の子どもたちを取り巻く課題解決のために何ができるかを考えました。

同展は2006年~2015年まで全国200会場で開催し、のべ120万人が来場しました。また、パネルをポスターサイズにした簡易な展示会も各地で開催(全国1,384会場のべ6万人が鑑賞)しました。



### What're子どもの人権展

1991年8月~2001年

### 世界の子どもとユニセフ展

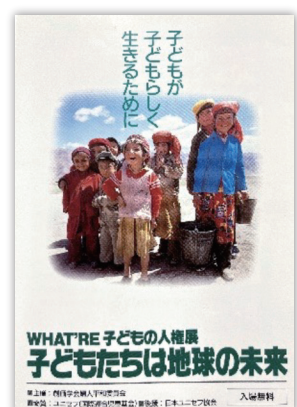
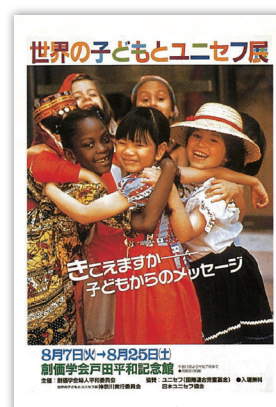
1990年7月~94年

### 21世紀と世界の子ども展

1987年6月~88年

### 母と子の戦争展

1984年5月



## 講演会

子どもの権利の実現のために尽力する識者を招き、講演会を開催しています。

### 【近年開催した主な講演会】 ※講師の所属・肩書は開催当時

- 2023年 「子どもの幸せとこども基本法 こども家庭庁体制」  
日本大学文理学部教授 末富芳氏
- 2019年 「子どもの笑顔のために」  
山梨学院大学教授・子どもの権利条約総合研究所代表 荒牧重人氏
- 2018年 「家庭からはじまる平和の文化」  
児童虐待防止全国ネットワーク理事 高祖常子氏
- 2017年 「子どもたちの笑顔が未来をつくる」  
国連子どもの権利委員会委員 大谷美紀子氏
- 2014年 「子どもは変わる、大人も変わる」  
お茶の水女子大学名誉教授 内田伸子氏
- 2014年 「子どもたちとつくる未来」  
東洋大学社会学部長 森田明美氏

## 子どもが幸福な社会を —— 創価学会の源流

日本が軍国主義の道を進んでいた時代にあって、教育者だった創価学会初代会長・牧口常三郎(1871-1944)は、教育の目的とは、国家のための子どもの育成にあるのではなく、どこまでも“子どもの幸福”にあることを提唱。小学校の校長時代には貧困家庭の子どもに給食を提供するなど、常に子どもに寄り添った教育を自ら実践しました。牧口が目指した、“子どもの幸福”を最優先する理念と実践は、「子どもの権利条約」の精神と響き合うものです。



創価学会初代会長 牧口常三郎



東京市白金尋常小学校第9代校長に就任



# 04 ジェンダー平等と 女性のエンパワーメント

国内外の識者との交流を重ねながら、ジェンダー平等の推進と女性のエンパワーメントに取り組んでいます。

## 平和の文化と女性展

国連が定めた「世界の子どもたちのための平和の文化と非暴力の国際10年」(2001年～2010年)にあたり、「平和の文化と女性展」を企画・制作。同展は平和学者エリース・ボールディング博士の監修により、「平和の文化」構築のために女性が果たす役割と使命を、豊富な写真とイラストで紹介。2002年から2015年に全国を巡回し、のべ120万人が鑑賞しました。



エントランスパネル



「平和の文化と女性展」から



2014年4月 福岡県

## 監修者 エリース・ボールディング博士より女性たちに贈るメッセージ

女性はいつでも、家庭の中であれ、地域社会であれ“特別な場”を作って、人の話を聞いたり、対話をしたり、差異を乗り越える術を心得ています。あなたも「平和の創造者」になることができます。今、あなたがいる場所で「平和の文化」構築への挑戦を開始して下さい。

エリース・ボールディング 平和学者・社会学者(1920-2010)

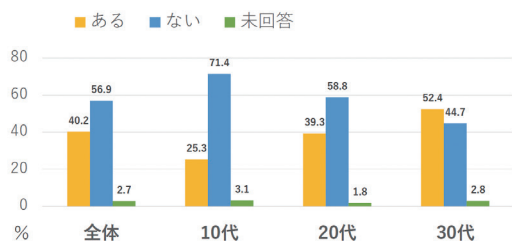
ノルウェー・オスロ生まれ。米国・ダートマス大学名誉教授、国際平和研究学会事務局長、国連大学理事などを務め、ユネスコが提唱した「平和の文化」の推進に貢献した。



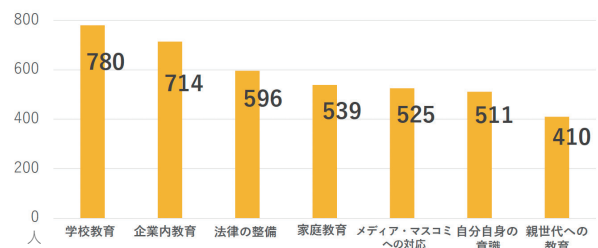
## ジェンダーに関する意識調査

2019年9月～11月、全国の中中学生から30代までの女性を対象に「SDGsとジェンダー平等」に関するアンケート調査を実施。1,363人から回答を得ました。女性に不利益な環境が当たり前になっている現状や、それを自身の問題として捉えなおす意識変革の重要性が浮きぼりとなりました。また、ジェンダー平等を達成するためには、学校や企業における教育、法律の整備が必要との意見が多く寄せられました。

Q あなたは自分自身の体験として、女性であることでの不利益を感じたことがありますか？



Q ジェンダー平等を達成するために何が大事だと思いますか？（複数選択可）



「ジェンダーに関する意識調査」結果報告より

## フォーラム

### SDGs フォーラム 「女性のリーダーシップが未来をひらく」



2022年3月、オンラインで全国を結びフォーラムを開催。各地の代表3名が、様々な分野でSDGsの推進に貢献する様子を報告しました。国連開発計画（UNDP）近藤哲生駐日代表は、気候変動をはじめ多様な危機を前に、国家だけでなく「人間の安全保障」の観点に立つ重要性を述べ、脅威に立ち向かう連帯を育む女性の力に期待を寄せました。

### 3.8 「国際女性の日」記念 「平和の文化と女性」フォーラム



北京での第4回世界女性会議から15年、「女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議第1325号」の採択から10周年にあたる2010年「国際女性の日」、同年2月「平和の文化と女性」フォーラムを開催。家庭、地域、社会における「平和の文化」構築に、女性の力が不可欠であることを確認しあいました。

### 「女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議第1325号」

国連安全保障理事会が2000年10月に採択した画期的な決議。国連加盟国に対し、政策決定を含むすべての取り組みに女性の平等かつ完全な参画を確保するよう要請しています。また、女性が紛争解決・予防、和平交渉、平和維持、平和構築に主体的に参画することの重要性、女性を紛争下の性的暴力から保護し、その権利擁護を促進すること、ジェンダーの視点に立って人道支援にあたることの必要性などを明記しています。これに取り組むため、日本を含む107カ国が行動計画を策定しています。（2023年4月現在）

## 講演会

### 未来を作る女性の力 —ジェンダー平等社会への課題



2020年10月、オンラインで開催した講演会では、SGI国連事務所（ニューヨーク）のアイビー・クック氏が、国連におけるジェンダー平等に関する取り組みとSGIの貢献を紹介。東洋哲学研究所主任研究員の栗原淑江氏は、仏教が示す男女平等の思想に言及し、女性のエンパワーメントが社会変革につながると語りました。

### ジェンダー平等について



2019年12月、公益財団法人「ジョイセフ」アドボカシー・マネジャーの斎藤文栄氏が、日本や世界で女性の権利が奪われている事例や、ジェンダー平等の進捗状況を概説。制度や推進計画の整備とともに、性別による役割分担などの固定観念を見直す重要性を訴え、ジェンダー平等を身近な課題と捉え、すべての人が生きやすい社会の建設をと語りました。

### 女性のエンパワーメントが社会を変える



2017年11月、UN Women 日本事務所 福嶋加代子所長は「UN Women」の活動を概説。ジェンダー平等と女性のエンパワーメント促進のためには法の制定だけでなく、市民団体などと協力しての実質的な推進が必要であると訴え、同機関が進める「He For She」キャンペーンを紹介しました。

### 平和の文化講演会 —災害復興と女性



2013年2月、静岡大学の池田恵子教授は、災害復興にあたってはジェンダーの視点を持つこと、特に女性の参加が不可欠であると強調。弱い立場にある人が災害被害をより大きく受けやすい現状を変えるには、日常的に地域を知り、暮らす人々の多様性を尊重し、人の絆を強めることが大切であると語りました。

※講師の所属・肩書は開催当時

## 女性 2000 年会議（北京+5）への参加、支援イベント



女性2000年会議にて(2006年6月 ニューヨーク)

2006年6月5日、国連の特別総会「女性2000年会議—21世紀に向けての男女平等、開発、平和」に、女性平和委員会は世界188カ国、約4,000人の女性たちとともに参加し、分科会などで意見交換。

また会議に参加できなかった市民のために、アメリカSGIのニューヨーク文化会館で、「北京プラス5」の報告会を開催。約400人の女性とジェンダー平等に関心を持つ男性が参加し、パリのユネスコ本部および、カンボジア、ガーナ、ペルー、ウズベキスタンから5人の活動家や専門家がスピーチ。全体会議の後には各種分科会が続き、活発な討議を行いました。

## ウィメンズプラザを開催（1981-2002）

結成当初から20年余にわたり、ウィメンズプラザを開催しました。全国各地で身近なところから女性たちの平和意識を深めようと、多様な形態で女性のエンパワーメントを推進しました。

### ◆ ウィメンズプラザ「平和講演会」（1981～2002年）

「女性と平和を考える」などのテーマで、専門家による「平和講演会」を開催（通算108回）。講演内容を収録した書籍も出版した。

### ◆ ウィメンズプラザ「平和主張のつどい」（1983～1990年）



『平和の大地』

“わたし発”の平和運動を発信する場として「平和主張のつどい」を開催。代表的な主張を、書籍『平和の大地』として発刊した。

### ◆ ウィメンズプラザ「平和フォーラム」（1990～2002年）

各分野の専門家をパネラーに迎え「平和フォーラム」を開催し、多角的に平和へのメッセージを発信した。

# 05 SDGsの取り組み

“誰も置き去りにしない”平和な世界を目指して、国際社会が推進する持続可能な開発目標(SDGs)の普及活動、目標達成への取り組みを多角的に行っています。



## フォーラム

### 未来をひらく SDGs フォーラム

2022年より、SDGsの周知と達成を目指し、全国様々な単位でフォーラムを開催。識者・専門家を招いての講演会、勉強会、映写会のほか、目標達成に貢献する取り組みや体験を共有するなど、内容は多岐にわたっています。



2023年6月、福岡でのフォーラムでは、講演「半径2kmの栄養循環とSDGs」や活動報告があった

2023年2月、沖縄でのフォーラムは「ファッションの力で世界を変える」とのテーマで開催



## 講演会

### 気候危機と私たちの使命

2021年2月開催。掛川三千代創価大学准教授は、地球全体に深刻な影響を及ぼす気候変動の危機的状況を、様々な角度から詳細に解説。国際社会、政府、企業など、あらゆる分野における変革とともに、私たちが日常の中で意識と行動を変える努力の必要性を訴えました。

### SDGsの達成へ“誰も置き去りにしない”国際社会の取り組み

2016年8月開催。根本かおる国連広報センター所長は、多分野にわたり複雑に絡み合う国際社会の課題を概説し、以下のように訴えました。



私たちの暮らす日本にも、子どもの貧困やジェンダー、異常気象など、さまざまな問題があります。途上国も先進国も含めた国際社会共通の目標を掲げたのがSDGsです。

17それぞれの目標は互いにつながり、関連しています。1つの目標の進展は、ほかの目標達成にも大きく影響します。SDGsに取り組むのは、国連や加盟国だけではありません。市民社会、団体、企業、そして一人一人が自分に何ができるのかを考え、みんなで実現していきたい。そのためのSDGsです。

## 学習ツール

### 国連の「ACT NOW」を支援

国連が、個人でできる気候変動対策を呼びかけるキャンペーン「ACT NOW」。これを解説する動画を作成し、意識啓発に努めています。



こちらからご覧になれます

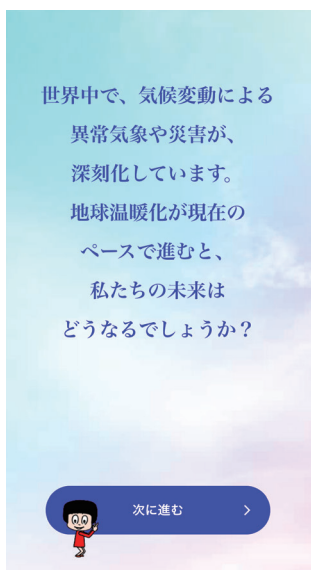


国連広報センターHPより

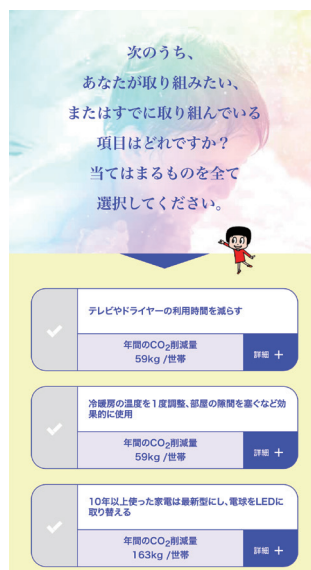
### 「マイ・チャレンジ10」の推進

創価学会が制作した、気候変動・地球温暖化への関心を高めるためのウェブサイト「マイ・チャレンジ10」を活用しています。「ACT NOW」の10項目を、日常でできる具体的なエコアクションとして“10個以上のチャレンジ”を呼びかけています。また、エコアクションを1年間続けた場合のCO<sub>2</sub>削減量がわかり、ワンポイントアドバイスももらえます。

まずはクイズに挑戦



マイ・チャレンジを選択!



CO<sub>2</sub>削減量が分かる



こちらから  
ご覧になれます

# 年 表



|       |     |   |
|-------|-----|---|
| 1957年 | 9月  | 戸田第2代会長、「原水爆禁止宣言」を発表                                |
| 1973年 | 8月  | 原水爆禁止平和集会を広島、長崎で開催                                  |
| 1974年 | 6月  | 青年部の反戦出版「戦争を知らない世代へ」第1巻・沖縄編が発刊                      |
| 1975年 | 1月  | 池田第3代会長、創価学会インタナショナル (SGI) 会長に就任                    |
| 1978年 | 5月  | 池田 SGI 会長、第1回国連軍縮特別総会に10項目の提言                       |
| 1980年 | 12月 | 婦人平和委員会 (現 女性平和委員会) が発足                             |
| 1981年 | 1月  | 女性平和文化会議 (現 女性平和委員会ユース会議) が発足                       |
|       | 1月  | ウィメンズプラザ「平和講演会」開始 (~2002年)                          |
|       | 8月  | 「女たちの太平洋戦争展」東京で開催                                   |
|       | 8月  | 反戦出版『平和への願いをこめて』第1巻を刊行                              |
|       | 12月 | 創価学会が国連広報局 (UNDPI) の登録 NGO に                        |
| 1982年 | 1月  | 創価学会平和委員会設置   |
|       | 6月  | NY 国連本部で「核兵器—現代世界の脅威」展を開催。海外巡回展スタート                 |
| 1983年 | 2月  | SGI が国連経済社会理事会 (ECOSOC) の協議資格 NGO に                 |
|       | 1月  | 池田SGI会長、「平和と軍縮への新たな提言」を発表。以後、40年以上にわたり毎年「平和提言」を発表   |
|       | 8月  | 池田 SGI 会長に「国連平和賞」                                   |
|       | 8月  | ウィメンズプラザ「平和主張の集い」開始 (~2002年)                        |
| 1985年 | 7月  | 反戦出版ジュニア版の発刊開始                                      |
|       | 7月  | 青年部の反戦出版『戦争を知らない世代へ』全80巻完結                          |
| 1989年 | 10月 | NY 国連本部で「戦争と平和展」開幕。海外巡回展スタート                        |
|       | 11月 | 「子どもの権利条約」が国連で採択                                    |
| 1990年 | 8月  | ウィメンズプラザ「平和フォーラム」開始 (~2002年)                        |
| 1991年 | 7月  | 反戦出版『平和への願いをこめて』全20巻完結                              |
|       | 8月  | 「What're 子どもの人権」展 (ユニセフ後援) 神戸で開催 (~2001年)           |
| 1993年 | 10月 | 「平和主張のつどい」の体験主張をまとめた『平和の大地』発刊                       |
| 1998年 | 10月 | アボリション2000 (核廃絶) 1,300万人署名を国連本部へ提出                  |
| 2000年 | 6月  | 国連特別総会「女性2000年会議」に代表が出席                             |
|       | 10月 | 「女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議1325号」が国連で採択                  |
| 2002年 | 6月  | 「平和の文化と女性展」東京で開催。全国巡回スタート (~2015年)                  |
| 2003年 | 6月  | 「平和の文化フォーラム」開始 (以後、全国各地で開催)                         |
|       | 8月  | 広島・長崎・沖縄の青年部が戦争体験記録集を出版                             |
| 2005年 | 7月  | 終戦・被爆60年にあたり、女性平和委員会が「戦争体験 継承・記録運動」を全国展開。記念フォーラムを開催 |
| 2006年 | 6月  | 戦争証言 DVD「平和への願いをこめて—女性たちの戦争体験」完成                    |
|       | 10月 | 「平和の文化と子ども展」東京で開催。全国巡回スタート (~2015年)                 |
| 2008年 | 12月 | 「世界人権宣言」採択60周年記念のフォーラムを開催                           |
| 2009年 | 1月  | 「平和の文化フォーラム」の体験主張をまとめた『朗らかに!』発刊                     |

|       |     |   |
|-------|-----|---|
| 2009年 | 4月  | DVD「平和への願いをこめてー 広島・長崎 女性たちの被爆体験」(英語、スペイン語、フランス語、中国語、日本語の5言語版)完成   |
| 2010年 | 2月  | 3.8「国際女性の日」記念、安保理決議1325採択10周年記念「平和の文化と女性」フォーラム開催  |
|       | 5月  | NPT再検討会議に寄せ、青年部の「核兵器禁止条約」制定を求める227万人署名および6か国の青年意識調査の結果を、同会議議長と国連事務総長に提出(ニューヨーク)                           |
| 2011年 | 11月 | 東日本大震災からの復興をテーマにフォーラム、講演会。以後、随時開催   |
| 2012年 | 8月  | 「核兵器なき世界への連帯」展、広島で開幕。世界巡回スタート   |
| 2014年 | 1月  | 「子どもたちとつくる平和の文化」キャンペーンを実施(～2015年)   |
|       | 12月 | 核兵器廃絶を求める青年部 512 万署名を、「核兵器の人道上的影響に関する国際会議」に合わせ提出(ウィーン)  |
| 2015年 | 7月  | 終戦・被爆70年にあたり、「平和フォーラム」を開催   |
|       | 8月  | ICAN、核時代平和財団等と協力し「核兵器廃絶のための世界青年サミット」を広島で開催  |
|       | 11月 | 「平和の文化と希望展」東京で開幕。全国巡回スタート   |
| 2016年 | 11月 | 日英対照の被爆証言集『女性たちのヒロシマ』発刊   |
| 2017年 | 3月  | 核兵器廃絶への「草の根映写会」全国展開開始(ヒバクシャ国際署名も推進)   |
|       | 7月  | 「核兵器禁止条約」が国連で採択。SGI代表も出席  |
|       | 9月  | 「原水爆禁止宣言」60周年に30カ国・地域の青年が集い「青年不戦サミット」英語版の被爆証言集『Hiroshima and Nagasaki : That We Never Forget』を発刊          |
| 2019年 | 11月 | 国内で子どもに関する活動を行う団体が連携し、「子どもの権利条約」を広める目的で立ち上げた「広げよう!子どもの権利条約キャンペーン」に賛同団体として参加。女性平和委員会として「子どもの笑顔キャンペーン」運動を開始 |
| 2020年 | 11月 | 「子どもの笑顔を広げよう!クイズ&アンケート」(大人を対象)を全国で実施  |
| 2021年 | 1月  | 核兵器廃絶を求める「ヒバクシャ国際署名」を支援、創価学会として61万筆超を推進、国連へ提出。「核兵器禁止条約」発効   |
| 2022年 | 2月  | オンラインアンケート「クイズで考える『子どもの権利条約』」(子どもを対象)を全国で実施   |
|       | 3月  | 「未来をひらくSDGsフォーラム」開始   |
|       | 6月  | 「核兵器禁止条約」第1回締約国会議にユース会議の代表が参加   |
|       | 8月  | 第10回NPT再検討会議に代表が参加  |
| 2023年 | 7月  | 創価学会公式ホームページ上に、女性平和委員会のページを設置   |

**PEACE  
CREATORS**